

## 歯内療法学特論・実習

《キーワード》 歯髄、歯髄炎、根尖性歯周炎、病原菌、免疫応答、歯内治療、再生療法

《担当者名》 長澤 敏行 森 真理 加藤 幸紀

### 【概要】

う蝕の進行等によって惹起される歯髄の炎症は、放置すると単純性歯髄炎、化膿性歯髄炎、さらには、根尖性歯周炎へと病変が拡大していくことが多い。根管は、単根歯、複根歯によってその形態が大きく異なり、副根管・側枝等の存在もあり、3次元的に複雑な解剖学的形態を有している。そのため、症例によっては根管の形態が歯内疾患の診断と治療に多大な影響を及ぼしていることから、低侵襲的で効果的な診断法と治療法の確立が望まれている。

この授業は、上記の様々なステージにおける歯髄炎と根尖歯周炎の病態及び病因について理解を深めるとともに、各ステージに応じた種々の診断法と治療法を理解し実践すること、さらには、再生療法などの新規歯内療法の開発のために必要な基礎研究及び臨床研究の実地方法と分析方法を理解し応用することを目標とする。

### 【学修目標】

1. 歯髄炎の病態解明に必要とされる病理組織学的、分子生物学的な分析法を理解し応用できる。
2. 歯髄炎の病因解明に必要とされる細菌学的、免疫学的な分析法を理解し応用できる。
3. 根尖性歯周炎の病態解明に必要とされる病理組織学的、分子生物学的な分析法を理解し応用できる。
4. 根尖性歯周炎の病因解明に必要とされる細菌学的、免疫学的な分析法を理解し応用できる。
5. 歯髄炎、根尖性歯周炎の診断のために必要な検査法について理解する。
6. 既存の歯内療法の効果判定に必要な臨床研究の手法を理解し応用できる。
7. 新規歯内療法の開発に必要な *in vitro* 研究による分析法を理解し応用できる。
8. 新規歯内療法の開発に必要な *in vivo* 研究(動物実験)の手法を理解し応用できる。
9. 新規歯内療法の効果判定に必要な臨床研究の手法を理解し応用できる。

### 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	講義	1) 歯髄の解剖学的、組織学的な特徴 2) 歯髄炎の診断、病因、病態、治療法 3) 根尖性歯周炎の診断、病因、病態、治療法 4) 歯髄炎・根尖性歯周炎の病因・病態の解明のために必要な基礎研究とその分析法 5) 歯髄炎・根尖性歯周炎の治療法開発のために必要な臨床研究その分析法 6) 学会発表及び論文作成	長澤 敏行 森 真理 加藤 幸紀
2	セミナー	1) 症例検討会 2) 基礎・臨床研究論文妙読会	長澤 敏行 森 真理 加藤 幸紀

### 【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

### 【評価方法】

出席状況、提出物

### 【教科書】

授業中に指示する。

### 【参考書】

授業中に指示する。

### 【学修の準備】

- 1) 自己の研究課題について国内外の文献を検索し、文献検討すること。
- 2) 自己の研究課題に関して基盤となる理論や方法論について学修すること。